

## 立枯病 (*Fusarium oxysporum*)



生育初期の立枯病による欠株



立枯れ症状



根および地際部の褐変症状

### 【見分け方（被害と診断）】

本病は土壌伝染性で、連作により多発する。発生時期は生育期全般で、はじめは部分的に萎ちょう株が発生し、根および地際部が褐変して立枯症状を示す。この罹病株から周辺株へ除々に被害が広がる。また、前作で発生したほ場を耕起すると、発生場所を中心に被害が拡大する。

### 【発生生態】

本病は土壌病原菌で、被害作物残さとともに土壌中で生存する。菌の生育適温は約27℃で、高温時に根が傷むような環境条件で発生しやすい。定植時の植え傷みや線虫による傷、乾燥や塩類障害による根の傷みは、病原菌の侵入を助け、被害を助長する。